「新しい時代の公」実践提案事業　子どもの心を受け止めるネットワークみえ

事業名称：子どもの心を受け止めるネットワークみえ（子どもの心を受け止める相談電話事業「チャイルドライン24」）

平成18年1月16日

§この事業のふりかえりの視点

子どもの心を受け止めるネットワークみえでは、「子どもが安全で安心して育つ地域社会の実現」を市民と行政で共有 夢の共有）し、具体的な事業の第1弾「チャイルドライン24」（目的：「子ども達の心の居場所づくり」）を実施するために実施組織をつくり、様々な取組 研修会の呼びかけ、子どもファンド、行政・NPOとの折衝）を行ってきました。（コストの分担）

市民と行政の間で共有された夢の実現に向けた取組 協働）に向けて、事業の中間段階でそれぞれが期待される役割を組織に属する個人としてふりかえり、それぞれに望ましいあり方を考える機会にしたいと思います。

記入に当たっては、チャイルドライン24の実施のために必要とされていることを事業（全体的な取組）として考えてください。チャイルドライン24は、「具体的な事業」として区別しています。

	NPO法人三重みなみ子どもネットワーク 秋山則子	三重県子どもNPOサポートセンター 出丸朝代	特定非営利活動法人 くわな子どもネット 堀内千春	こどもサポート鈴鹿 田城明子	子育ち広場∴ドロップin 永井礼子	特定非営利活動法人三重にフリースクールを作る会 石山佳秀	MEチャイルドラインセンター「チャイルドライン24」実施組織 田部真樹子	特）津子どもNPOセンター 平澤田代	MEチャイルドラインセンター「チャイルドライン24」実施組織 竹村浩	特）松阪子どもNPOセンター 中小原一代	NPO法人体験ひろば☆こどもスペース四日市 浜中久美子	CAPみえ 日比野一子	四日市まんなか子ども劇場 油田千鳥	生活部青少年育成室 小浜博	教育委員会事務局教育総務室 永田慎吾	NPO室 森下道大	こども家庭室 鈴木隆
§視点1　事業実施前に話し合いが十分になされていましたか。																	
視点1-1　事業実施の必要性について ニーズの把握）この具体的事業（「チャイルドライン24」）を実施するまでの検討段階で、その事業の目的の実現が必要（※）と考えられていましたか。あるいは、必要性についての説明や十分な話し合いをしましたか。（※事業の目的：子どもが安全で安心して育つ地域づくりの実現）	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	？
視点1-2　ニーズの共有 全体的な取組に対する具体的事業の目的や妥当性、目標等を話し合う機会を持ちましたか。	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	？	はい	はい	はい	はい	？
視点1に関して特に意見がありましたら以下に記入してください。	---	協働相手の行政の方々は、「チャイルドライン24」にのみ眼がいっていて、電話のバックにある「子どもが安全で安心して育つ地域社会の実現」にのためにネットワークがあることを認識しているのか疑問に感じることがある。	---	---	---	---	1年以上かけて話し合ってきています。そのことが立証していると思います。	---	1年半にわたる準備会、公開ワーキングを通して一貫して話し合ってきたこと。	---	これをせずに、始めることは考えられません。	会議への参加が少なかったので、1－2については“？”に丸をつけさせていただきました。	チャイルドラインを実施していく団体の1つとして、子どもの電話を受けるという日々の実施のところでは、子どもの生の声が寄せられる、苦しい出来事はもちろん、楽しい出来事も話せずにいる子どもの姿がある。核家族化と共に地域社会が崩壊し、一番の犠牲になっているのは子どもである事をいつも、実感させられる。	NPOと県関係所属による検討ワーキングにより協議を進めました。	話し合いにあたって、県として事業実施の責任をどの部署が負うのか、各部局の担当者はどういった立場で話し合いに参加するのかという整理が不十分であったように思います。	チャイルドライン24を具体的事業として実施するために、協働事業提案があってから1年半にわたり検討してきた。縦割りをこえた行政連携や、互いの認識を確保しながら具体的な事業を実施するということは話し合われていた。完全な合意は、難しいのでやりながら段々と形成されていけばいいとおもうが、道のりは遠いと感じている。	・具体的事業の目的にしては、あまりにも広汎かつ抽象的すぎる目標であり、目標を実現させるための手段や短期的目標（17年度目標、18年度目標）が不明確である。・電話相談という手段が目的化している。電話相談というデバイスを活用して何をめざすのかが共有されていない。
§視点2　事業の目的や事業に関わる意義を確認していますか。																	
視点2-1事業の公共性と行政関与の妥当性 この事業は、社会全体の利益（公益）のための事業ですか。また、特定の個人や利益や、構成団体の利益を「共益」）を目的とする事業になっていませんか。	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
視点2-2　社会に与える影響 この事業は、視点1で把握された地域の課題の解決に向けて、社会を変えていくことができますか。（⇒視点4　具体的な動き、成果と関連）	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	？
視点2 3　事業の先駆性 この事業と同様の事業が県内ですでに行われていませんか。	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	？	いいえ	？	いいえ	いいえ	？
視点2-4　協働の妥当性 行おうとしている事業は、行政と市民との協働でなければ実施できない、あるいは協働で行うことにより、効果が期待できる事業ですか。（⇒視点4　具体的な動き、成果と関連）	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	？	はい	？
視点2に関して特に意見がありましたら以下に記入してください	---	NPOは、実施の部分を民間で担うことは当然のことと認識している。その上で、行政が負担できるところは何かをともに考えたいと思っている。資金以外のところでの行政の協力は、この事業がうまく実施されていくことを見守り育てていくことにもあると思うが、そのような熱意が感じられないのは何故だろう。この姿勢は協働している相手にとってはいつも疑心暗鬼を生み、信頼が薄れてしまうことになっている。	---	チャイルドライン24はラインの実施自体も子どもが安全で安心して健やかに育つ地域づくりにつながると同時に実施を通して地域でかかわるボランティアを増やすことが地域づくりにつながると考えます。そういう意味で行政と市民が協働で取り組むこと意義があると思います。	---	---	独自性という意味でも、協働によって未来をになうこどもに対して責任を持ち合う上でも。	---	---	---	---	---	市の業務でも相談窓口はあるが、主に大人、親からの相談が多いと聞いている。子どもの心に寄り添うという電話はない。子ども関係の活動を前身からあわせると35年に及ぶが、子どもにとって小さい頃の遊び環境。教育環境どれをとっても不十分で、人間関係の作りにくさもますます強まっている。また、子どもに対して支援が居ることの必要性がまだまだ理解されにくい社会なので、協働は必須である。金銭的にも24時間フリーダイヤルであることは子どもが安心して電話をかけられる条件の一つである。	この事業を実施する上では、子ども相談電話に関する専門的な知識・経験や人材を有するNPOに担っていただくことが不可欠です。	事業の一般的な意義は認識しているものの、協働の妥当性等についての共通認識が不十分であったと思います。	子どもたちに係わる団体で連合体をつくって具体的な事業をおこない、その結果を行政やNPO活動に反映していく仕組みは、珍しいといえる。この具体的な事業のポイントとなる24時間子ども専用フリーダイヤルは、県内では前例がない。学校の先生の参加、オレンジの羽根などを通じての企業協力など社会に影響を与えていると思うが、その成果はまだまだこれからだとおもう。	・県健康福祉部からみた同事業の目的が、あまりにも広汎かつ抽象的すぎる目標であり、目標を実現させるための手段や短期的目標（17年度目標、18年度目標）が不明確であるため、健康福祉部が担う施策の向上に効果があるのか、プロセスと手段が十分理解できない。最終目的であるネットワークの目的は、行政と住民が共同して実現する重要な事項であると考えるが、これは短期的に実現できるものではないと思われる。
§視点3　それぞれの役割は、明確に整理されていますか。																	
視点3-1　事業における組織の役割 「新しい時代の公」では、行政と民間が公共領域を担いあうことが示されています。この事業を実施していくために必要とされている役割等について、あなたが属している組織が果たしている役割や期待されている役割はどういった内容でしょうか。	地域で、子どもたちが安全で安心して暮らせるように事業を実施すること。また、地域の方たちがこの事業に参加しやすい仕組みを、地域住民・地域行政と協力して作り、運営していくこと。	子どもNPOサポートセンターは、子どもが安全に安心して育つ環境を作ることを目的に多様な活動を実施してきており、その活動を通して見えてくる課題解決の方策として、この事業があるとの認識である。このように、これまでの活動で蓄積してきた人材や、課題解決に向けた取り組みの道筋や手法、将来に向けての戦略など、すべてのものを本事業の実施に提供していけるとの自負がある。	・実施していくための人材の育成・確保、そのための広報 ・実施場所の提供 ・資金作りの為の声がけ ・行政への働きかけ、縦割りの行政間をつなぐ ・実施を通して見えてきた状況を地域社会作りに生かしていく、また提言をしていく	地域でのチャイルドラインの実施、子どもにかかわる大人を増やし、地域のネットワークを作ることだと考えています。	円滑な実施、財政負担 目的を共有し、地域で子どもを見守り支える人を増やす。	この事業に関わる直接的な部分での取り組みは、なかなかできないのが実状です。ネットワークの会議に参加する中で、当会が活動している「不登校の子どもの支援」に関する視点で発言し、この事業の充実につながる事が大切な役割ではないかと認識しています。	---	この事業を実施していくための実施団体としての役割	・事務局 ・コーディネイト NPO-行政 NPO-NPO ・実施母体 NPO-NPO NPO-ボランティア	---	チャイルドライン24の実施。行政・地域の関連各機関に働きかけ、ネットワークを創っていく。	今年度について、この事業におけるCAPの具体的なかかわりは、なかったと思います。CAPの活動をこの組織で活かしていくとすれば、受けての研修で、またこの事業の行政担当者に「子どもの権利」をつたえていくことだと感じています。	チャイルドライン24を実施していく組織として、実施に関わる人の確保が急務である ボランタリーな活動はその意欲を持続させるための話し合いなどが必要であり、働きかけなしでは自然増はないので、子どもに関わる団体としてその必要性を訴え、働きかけることがいる。その団体を支えるにも意欲・資金と う、協働は必要だと考える。	専門的な知識・経験や人材を有するNPOの活動に対し、賃金、情報提供等の支援を行います。	子どもという観点から、県教育委員会も一定の関係があると考えています。このため、情報共有の必要性はありますが、それ以外の役割は不明確だと思います。	NPO室は、協働の仕組みを構築していくため、この子どもの心を受け止めるネットワークみえの事務局費を負担している。また、協働の仕組みについて、考え方を示すことが期待されている。	・児童相談や援助、児童虐待対策、子育て支援等に関する人材育成、啓発等
視点3-2　問題点の把握 視点3－1で記入した役割の担い方等で障害となっていることがありますか。	人手不足と資金不足。	相談電話の実施は本年8月の最終週から取り組み始めたところであり、次の段階を議論するためには、もう少し相談電話実施の実績を積む必要がある。	行政（市）において、この事業の重要性を認めてもらえない。実施場所の確保ができない。人材の確保が難しい。	地域でネットワークを作ることが必要だと考えていますが、実際の動きがなかなかできていません。	毎週の実施に負担がかかり、拡げていくのに時間が不足。	---	---	事業に係わるボランティアが少ない。団体として財政的な負担	行政との協働の裏表	---	行政の担当者個人の理解は得られるが、上司、組織としての理解を得ることが難しい。	---	資金調達。ファンドなどの取り組みも実施しているが、企業などの支援がすくない。NPOへの企業の寄付控除などの早期実現。人材不足。自分たちの活動も忙しく両立の大変さ。	---	県教委としての役割が不明確であるため、協力の方策、担当部署等がわかりにくくなっています。	協働の仕組みは、庁内の従来のルールと対立する部分が多い。また、直接予算の主担当をもっていないため、青少年育成室と予算調整室との検討事項の解決につながっていない。また、協働事業の定義が、多様とされているため、庁内での考え方を統一して前へ進めることができずに障害になっている。	県と市町村の連携や意志疎通。市町村の児童相談体制の整備の格差。
§視点4　事業を計画的に進めていますか。																	
「子どもが安全で安心して育つ地域社会づくり」という夢に向けた最初の取組としての「チャイルドライン24」の実施やそれを支える取組は計画的に進んでしますか。次の点について記入してください。																	
○事業実施やそれを支える取組は、全体的な計画として整理され共有されていますか。	はい	はい	？	はい	？	はい	？	はい	はい	？	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	？
○全体的な計画には、将来的な方向性が明確になっていますか。	はい	？	？	？	いいえ	はい	？	はい	？	？	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
○その計画に自らの組織が参加している意義は整理できていますか。	はい	はい	はい	はい	はい	？	はい	はい	──	はい	はい	？	はい	はい	はい	はい	？
○全体の計画のコストを把握し、関係者で共有されていますか。	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	？	？	はい	？	いいえ	──	はい	はい	？	はい	？
○成果として示すことの出来る具体的な動きや指標等がありますか。	はい	はい	いいえ	はい	？	？	──	はい	はい	？	はい	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	？
※「はい」と記入された場合は、具体的な指標などを記入してください。※ 関連　視点2-1，4	・研修会の呼びかけの成果・子どもファンドの実績・NPOと行政との折衝の結果	・指標という表現は本事業の場合適当でない。・具体的な動きをつくるためのデータは集積されつつあるが、実績としては通年ではないことから本事業の継続的実施が必要である。・電話相談事業は子どもにとっての安全・安心のために大きな部分を占めるが、事業目的実現のための一つの事業であることの認識を求めたい。	---	チャイルドラインにかけてくる電話の数や電話から見える子どもの姿を通して見える問題点などを提言していくこと。 チャイルドラインにかかわるボランティアの数。	目的に向けて、まだまだ動き始めたばかりで進行中。どこまで共有できているか回答できない。	---	---	受け手や講習会の参加者、ファンドの動きなどを通してこの事業に関わり、子どもの状況を理解する人が少しづつ増えてきている。	年次報告	---	○チャイルドライン24のデータ、データ分析結果○支えるボランティアの広がり	―	チャイルドライン24の着信数等のデータや振り返り会議などで話される。チャイルドライン24の電話内容から分析されるの子どもの状況	相談電話実施日数、相談電話着信 通話）件数	---	全体的な計画は、手探りで進んでいるので示されていない。具体的な動きや指標はでてきている感じているが、成果として示す段階ではない。また、将来的な方向は示されているが、参加団体すべての合意に至るまでにはなっていない。その意味で明確になっているとはいいがたい。将来的には、協働の仕組みができあがれば、NPO室の役割は終わると考えている。	---
○成果として把握された内容は、どこに帰属させるか話し合っていますか。	はい	はい	いいえ	？	はい	？	はい	はい	はい	？	？	いいえ	はい	はい	はい	はい	？
○この事業の終了する条件を話し合い、関係者で共有していますか。	？	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	？	いいえ	？	？	はい	はい	？	いいえ	？	？
視点4に関して特に意見がありましたら以下に記入してください	---	「チャイルドライン24実施」については、常に実施組織、ネットワーク組織ともに情報を共有しておりそれぞれの構成員から「実施」に関しての企画に、異議がさしはさまれたことはない。しかし、本事業の終了に関しては話し合いが行なわれたことがないにもかかわらず、予算主単部では、本事業は試行であり2,3年で終わるものとの非公式な発言がされていることは残念である。NPOとしては終わりを決められるものではないとの認識であることから、今後この点に関する話し合いが必要である。	---	子どもたちがチャイルドラインに電話をかける必要がなくなった時	---	---	---	---	---	---	---	---		成果として示す指標について、着信件数等以外の事業の効果を示す方法の検討が必要と考えています。	中長期的に、この事業をどのように進めていくのかという点について、共通認識を持っていく必要があると思います。	協定書で成果については記載している。子どもの育ちに対する県行政の望ましい役割が、まだ明確に共有されていません。今後子どもの心を受け止めるネットワークみえの性質を、行政とNPOの対話の場としていくこと必要で、その対話を通じて見えてきた役割に基づいて、必要な事業を協働事業として実施していくことが必要ではないだろうか。	電話相談という手段、また相談者と同世代の青少年が共感、受容するという方法論はわかるが、チャイルドライン24が実施している電話相談という手段が、即子どもが安全で安心して育つ地域づくりの実現につながるものではない。大きな目的で、個々の独自の活動を行うNPO組織を括るのはわかるが、再度1年やってみて今回振り返りする意義は大きい。またもう少しタームの短い目標設定が必要ではないか。
§視点5　参加・参画の体制づくりは進んでいますか。																	
視点5-1　当事者性 この取組に関わる「当事者」であることを意識し、事業実施にかかる業務や費用の分担などを話し合って主体的に参加していますか。	はい	？	──	はい	はい	？	──	はい	はい	はい	はい	？	はい	はい	？	はい	はい
視点5-2　対話（コミュニケーション） 相互に異なる価値観や組織の目標に基づいて行動することを理解し、対等な立場で話し合いをする場がありますか。	はい	？		はい	はい	はい	はい	はい	はい	？	はい	？		はい	はい	はい	はい
視点5 3　意思決定 話し合いの場で課題に対する意思の決定方法について合意していますか。	はい	いいえ	──	はい	はい	？	はい	はい	はい	？	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
視点5-4　問題の解決について 合意できない事項や問題が発生した場合の解決方法は合意されていますか。	はい	いいえ	──	はい	？	？	はい	はい	はい	？	？	はい	はい	？	？	はい	？
視点5に関して特に意見がありましたら以下に記入してください	---	1．費用や業務の分担は話し合っているが、当事者としての認識がうすいと感じている。2．満足できなくても誠意ある態度であれば受け入れられるが、そうなってないと感じることから、対等な立場で話し合っているとはいえない。3．課題に対する意思決定が一方的に行なわれたことがいくつかあり反省点である。4．課題解決の結果のみを一方的に知らせることがあり、最初に決めておかなかったことは反省点であるが、そのようなやり方をする行政への不信が高まる。	---	---	---	---	対等という言葉をどう解釈するのか	---	現実は難しい 2，4）	---	―	本当に申し訳ありませんが、会議への参加が少ないので、メールと郵便物のみでの感想を書かせていただきました。		ネットワーク会議等で情報交換等を行なっています。	問題点等について、合意のできない場合の対応策がはっきりしていないと思います。	子どもが心を受け止めるネットワークみえでは、こういったことを行なっているが、参加者が多いので、深く個別に話し合う場はそれぞれに設けている。	特に県の行政機関内部の意志決定プロセスについて、疑問がある。
§視点6　事業企画段階で欠けていた視点や今後必要とされる仕組み、制度等はなんでしょうか。																	

§視点6　事業企画段階で欠けていた視点や今後必要とされる仕組み、制度等はなんでしょうか。	事業を継続していくためには、事務局体勢を充実させることが必須です。そのための資金を作る制度、県府県で導入され始めた、住民が選んだ市民団体に税金の一部を寄付するという制度を是非三重県でも作ってほしい。	企画段階では話し合いに充分時間をかけ、意思決定者で協定を結んだが、現在直面している問題は、行政側の認識が甘さに起因している。県は、協働提案事業の制度の積案があいまいなままスタートしたことに原因であるかのような説明をNPO側にしたが、それは県の内部の問題であり、むしろ縦割りで柔軟な対応が出来ない県の取り組みに問題がある。問題発生時のNPOに対する県の対応は、責任の所在をあいまいにし、たらいまわしにするなど顧客をさらしている。県の一貫した姿勢を示していないことが問題である。NPOとともに公を担い合うことの基本的な考え方を全庁に浸透させる必要がある。	----	----	財政を生み出す仕組み	----	お互いが何を持ち寄るのか　何を分担しあうのか　壁をどうつき破り合うのか　どう割り合うのか	・関わる人の人件費が、予算組みされていない。 ・官民の対等性のズレ	・公的資金 予算協議 ・行政部署間協議 ・運営	----	協働についての認識の違いを埋めていくことと同時に企業との協働も考えなくてはいけない。	必要とされるのは、どのようにしたら子どもたちにこの事業が伝わるかだと思います。子ども達が悩みを話る場の多くは、学校の養護室です。そこで、県内の養護教諭にこの事業を理解してもらえば、もっと子どもたちに伝わるのではないかと思います。	行政との協働の考え方の違いの整理。人事など単年度で考えるところがあるので継続性について。NPOへの企業の寄付に関しての控除など。	民間部門の支える資金の仕組みを検討する必要があると思います。	NPO等からの提案を、県事業として実施していく仕組みが確立していないと思います。	事業担当室だけでは、NPOと行政が話し合って合意しても、予算の方針など他の部署が係わらなければ決定できない仕組みが県にあるため、こういったことを改善する手法の開発が必要だ。	